

OAPの環境問題に関しましては、本年6月からOAP敷地内の対策工事に着手しておりますが、今般、OAP敷地周辺への影響の有無を確認するため、当社旧大阪製錬所敷地（OAP敷地）外となる事業者用地等4地点において環境調査を実施し、下記のとおり調査結果がまとまりましたのでお知らせいたします。

当社では、本調査結果に関する近隣住民の方々の疑問やご相談に応じられるよう窓口を設け、ご不安の解消に努めるなど誠意を持って対応してまいります。

記

1. 経緯

OAPの環境問題に関して、昨年4回にわたり開催された「OAP土壌地下水汚染対策に係る技術評価検討会」の提案を受けて、事業者は本年6月より、汚染源からの周辺への拡散防止のため、OAP敷地内にて対策工事に着手しております。

今般、同検討会のご見解並びに大阪市からのご指導に基づき、旧大阪製錬所敷地（OAP敷地）内の地下水汚染に起因する周辺への影響の有無を確認することを目的として、OAP敷地外となる事業者用地等を対象とした土壌・地下水調査を実施いたしました。

2. 調査概要及び結果

図-1に示す4箇所（No.1～4）において観測井（深さ約20m）を設置し、セレン、ヒ素、水銀、鉛、ふっ素についての水質分析並びに水位測定を行いました。水質分析は正確を期すため、2回実施しました（7/14, 8/11）。その結果、今回新たに設置した観測井4本より、地下水環境基準を超過するセレン（最大4.1mg/L）、ヒ素（最大0.046mg/L）が検出されました。

土壌については、水質分析で環境基準超過が見られたセレン、ヒ素について深さ1mごとに溶出量及び含有量を分析しました。土壌溶出量の最大値は表-1に示すとおりですが、高濃度域は深さ方向に局部的なものとなっています。一方、土壌含有量は地点No.2の深部（深度-12m～15m）で基準を超過するヒ素（200～340mg/kg、基準値150mg/kg）が検出されたものの、その他の地点・深度では全て基準値以下でした。地下水位の測定結果では、地下水面は地表より約4m下部にあり、また、その勾配はOAP敷地南東側が高く、北西側が低くなり、これまでのOAP敷地内調査における結果と同様の傾向が観測されております。

表-1 調査結果概要（各地点の最大値、網がけ部分は基準値超過）

地点	地下水 (mg/L)		土壌溶出量 (mg/L)	
	セレン	ヒ素	セレン	ヒ素
No. 1	0.20	0.016	1.9 (深度-3m)	0.38 (深度-15m)
No. 2	4.1	0.046	1.0 (深度-12m)	0.38 (深度-15.5m)
No. 3	0.085	0.002	0.077 (深度-0.5m)	—

No. 4	0.051	0.002	0.044 (深度-4m)	—
基準値	0.01		0.01	

* 水銀、鉛、ふっ素については全地点で地下水環境基準以下でした。

3. 推定汚染原因

〇ＡＰ敷地と当該地点との距離、位置関係、経過年月等を総合的に勘案すれば、〇ＡＰ敷地内の汚染地下水が原因となっている可能性が考えられます。しかしながら、現時点では、業務棟地区では地下最大-16mまで掘削除去してあることから主要な汚染源は存在せず、さらに深さ約40mまでの地中連続壁が敷地境界部に設置されています。また、住宅棟地区の汚染箇所については、現在、高濃度汚染土壌の掘削除去並びに地中連続壁（深さ約20m）の設置工事を実施中であり、本対策工事により新たな周辺への汚染拡散は防止されます。

4. 周辺への影響

人の健康への影響については、地下水を飲用したり、汚染土壌と直接接触したり、粉塵を吸入する場合がございます。しかし、今回の調査結果により、土壌については全地点で表層部において含有量基準値以下であることが確認されました。また、大阪市より近隣で地下水を飲用している事実はないと聞いておりますので、健康影響のおそれはないものと考えております。

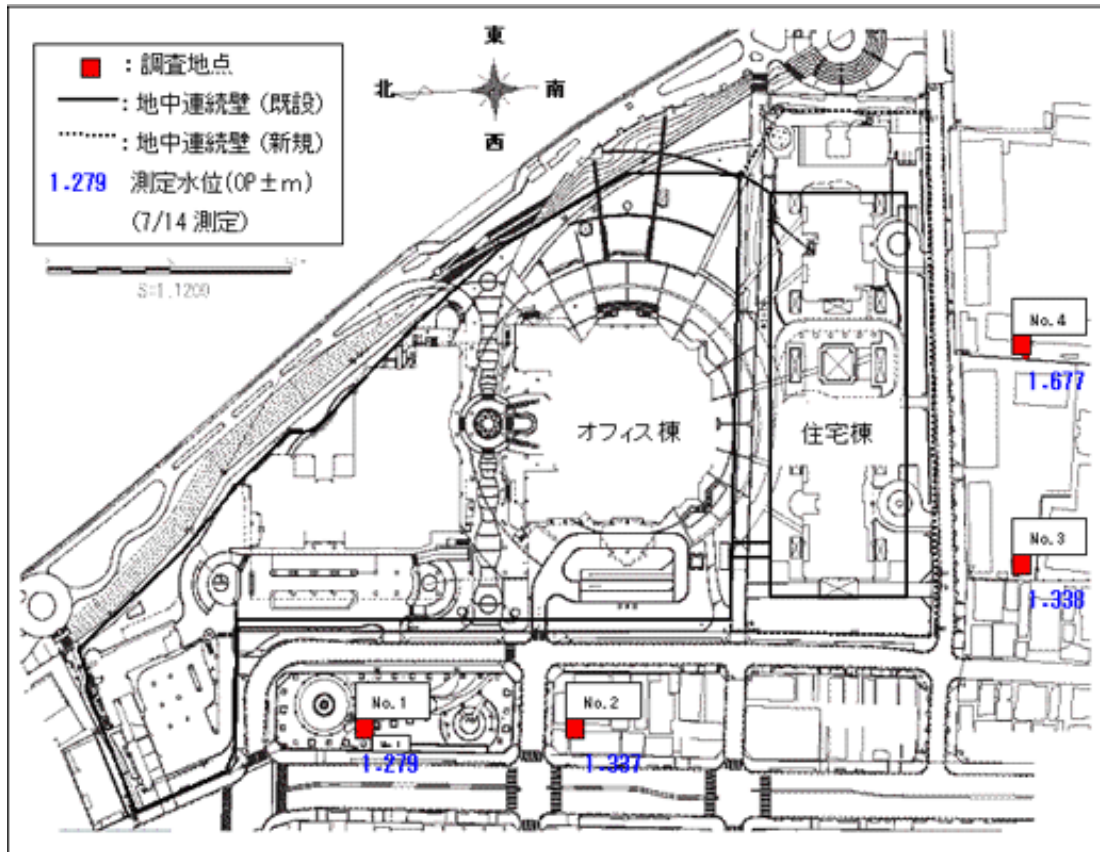
5. 今後の計画

汚染源から周辺への拡散防止のための工事等を実施しており、この対策工事によって周辺への汚染拡散は防止されますが、今後新たに次を実施する予定としております。

(1) No.1、No.2エリアについては、当該箇所に隣接する〇ＡＰ敷地境界部において拡散防止ならびに浄化を目的とした地下水の揚水を実施します。

(2) 今回設置した観測井を用いてモニタリングを実施します。
上記計画の実施については大阪市と協議して進める予定です。

図1－調査地点位置図



以上